

北陸地方の居住者の住宅像

富山女短

金岡トモコ

富山・石川・福井3県の産官学の有志によって結成された北陸のすまい研究会が活動の一つとして実施した調査「北陸の住宅に関する意識調査」(有効総数1104票)の一部を報告する。現在の住まいに対する満足度は「まあ満足」「満足」合わせて70%と3県とも同じ割合で満足感を表している。しかし具体的に現在の住まいに対する不満な点を27項目から選んでもらった結果、「収納スペース」(36%)、「結露」(34%)、「融雪装置ない」(34%)、「トイレ・脱衣室など冬寒い部屋」(29%)、「間取り」(27%)、「屋内洗濯物干し場」(27%)、「断熱性・気密性」(21%)で3県ともほぼ同じ項目が挙げられた。上位を占めた不満項目は北陸地方の気候特性に根差した環境性能に関わるものが多いことが認められた。次に将来の新築・改築時に重視したい点を12項目から複数回答をしてもらった結果、「間取り」(64%)、「諸設備の充実」(60%)、「断熱性・気密性・遮音性」(47%)、「結露・カビ・ダニ対策」(44%)「雪対策」(38%)の順であった。さらに最も重視する点として「延床面積」(46%)、2番目に重視するものは「環境性能」(44%)、3番目には「システムキッチンなどの諸設備」(48%)であった。また具体的な希望事項は「続き間・縁側は必要」(85%)、「和室3室以上」(80%)、「ダイニングキッチン」(48%)、「和室の居間」(55%)、「在来木造」(80%)、「融雪装置必要」(84%)、「玄関に吹抜け」(42%)であった。北陸地方に多く見られる住宅像が容認されていることが窺いしれる結果だった。なお対象者の属性は男が58%、40歳台から60歳台で72%、夫婦共自県出身が80%である。住宅は持ち家が97%、在来木造86%、和室5室以上が27%と最も多く、延床面積の平均165m²、敷地面積の平均324m²である。